

いづみぎ 出雲崎町議会 だごよ



第132号 2026 令和8年7月

海へ、大地へ。

この町の『生きる力』がここにある。



6月定例会 もくじ

6月定例会……2	議案質疑……2	陳情……4	議会最前線……5
一般質問(5人が町政を問う)……6	全員協議会……12	視察報告……14	
議会からのお知らせ……15	議会のうごき……15	みんなの声……16	



出雲崎町議会
ホームページ



出雲崎町
公式LINE

議案22件を可決・承認

6月 定例会

会期 6月8日から12日（5日間）

主なものから抜粋して掲載しています

地域力創造アドバイザー
業務委託料

曾根 進氏

610
万円

概要 地域活性化や住民主体のまちづくりについて自治体へ助言・支援を行う専門人材（総務省制度）

政策アドバイザー
業務委託料

大津 俊哉氏

100
万円

概要 行政施策や事業計画について専門知識をもとに自治体へ助言する外部専門家

小木ノ城山の
樹叢倒木伐採料73万
6千円

概要 降雪等により倒木した1本倒木の危険性のある2本計3本を伐採

早く伐採して安全な状態にしてほしい。小木ノ城への道で枝が道路に垂れ下がっていると通行の妨げになって危険。

それも定期的に伐採してほしい。

小木ノ城を愛する男性

大門橋配水管
布設替工事1,000
万円

概要 大門橋管体劣化のため布設替え工事

町道修繕工事
測量業務委託料
小木ノ城線250
万円町道修繕工事
調査設計業務
委託料
小木ノ城線1,210
万円

概要

崩落した町道小木ノ城線修繕工事のための測量及び調査業務委託料

町長
専決

人事案件

農業委員会委員の任命について同意

議案第37号から第41号

もろはし きよ たか
諸橋 清隆氏（柿木）まるやま ゆ り え
丸山百合江氏（船橋）おかだ み ゆ き
岡田美由紀氏（松本）た な か のぼる
田中 昇氏（小釜谷）ない とう し のぶ
内藤 仁氏（久田）

令和8年度 一般会計補正予算

歳入歳出3,031万8千円を追加

総額 38億891万8千円

可決された条例制定

議案第28号 出雲崎町税条例の一部改正

町民税の申告に係る規定、軽自動車税の環境性能割廃止により改正するもの

議案第29号 出雲崎町国民健康保険税条例の一部改正

子ども・子育て支援金課税分に伴う既定の新設、課税限度額及び保険税軽減対象世帯の所得割判定の見直しを行うもの

※「子ども・子育て支援金」とは、政府の少子化対策（児童手当の拡充・こども誰でも通園制度など）の財源として、公的医療保険に加入する全世代から徴収される制度（令和8年4月施行）

質疑

中野議員

18歳以上被保険者均等割額を100円にした理由はなにか。当町の独自、考え方なのか、近隣の町村と比較してみたのか。

町民課長

子ども・子育て支援法等の一部を改正するものである。被保険者18歳未満からはもらわない仕組みとなり、18歳未満がもらわない均等割額を18歳以上の被保険者で割る。県内の他町村を見ても100円の町村も多数ある。

議案第33号 出雲崎町道路占用料徴収条例の一部改正

占用料を徴収する占用物件に道路法施行令第7条2号に掲げる工作物である太陽光発電設備及び風力発電設備を追加するもの

質疑

小林明日香議員

占有面積1平方メートルにつき850円とあるが、風車の真下だけか、開発した土地全体か。

建設課長

物件がかかるところ全てが対象になる。

6月定例会で審査された陳情

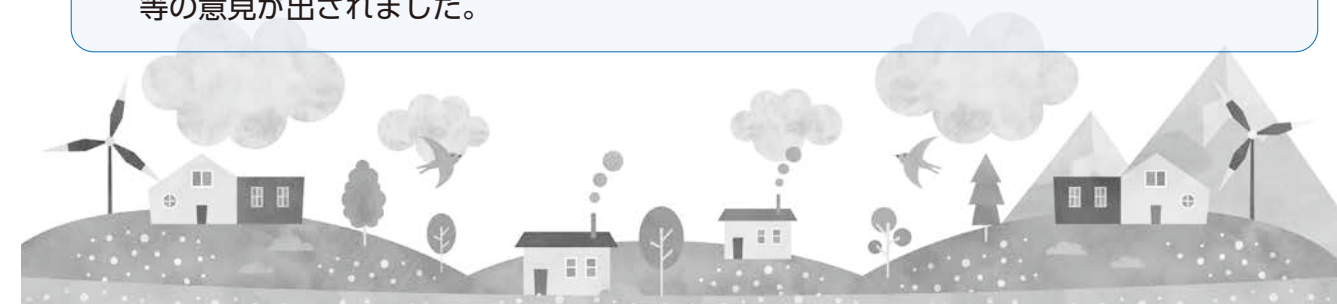
6月定例会では、出雲崎町に予定されている風力発電事業について、それぞれの立場から7件の陳情がよせられました。付託を受けた総務文教常任委員会では、各陳情の趣旨および理由を踏まえ、採択の一般的な基準である、「願意の妥当性」「実現の可能性」「町村の権限、議会の権限事項に属する事項であるかどうか」の観点から、各陳情項目を順に確認し、慎重に審査を行いました。その結果は本会議において採決され、以下のとおりとなりました。

陳情 第2号	出雲崎町における風力発電事業の検討に関する陳情	不採択
		賛成 2人 反対 7人
陳情 第4号	出雲崎町における風力発電事業の推進に関する陳情	不採択
		賛成 3人 反対 6人
陳情 第5号	出雲崎町で検討されている風力発電事業に関する陳情	不採択
		賛成 2人 反対 7人
陳情 第6号	(仮称) 出雲崎・西山風力発電事業に反対し、低周波音等による健康影響について慎重な対応を求める陳情	不採択
		賛成 2人 反対 7人
陳情 第7号	(仮称) 出雲崎・西山風力発電事業に伴う土砂災害・森林破壊・水環境への影響について慎重な対応を求める陳情	不採択
		賛成 2人 反対 7人
陳情 第8号	(仮称) 出雲崎・西山風力発電事業に伴う自然環境・生態系・景観への影響について慎重な対応を求める陳情	不採択
		賛成 2人 反対 7人
陳情 第9号	(仮称) 出雲崎・西山風力発電事業に関する一部地区限定の説明会の撤廃、及び客観的安全性が証明されない場合の計画見直しを求める陳情書	不採択
		賛成 2人 反対 7人

質疑

- ・既に町と事業者で調整がなされている部分ではその項目について採択できない。
- ・建設的に推進する事は町の権限ではないのではないか。
- ・十分な理解と合意が得られるまで事業を進めないのは、議会の権限を越えている。
- ・説明会については地域の考えが尊重されるべきである。
- ・行政側が町民の意見を聞く懇談会が行なわれており、意見が上がれば行政側で対応する事となる。

等の意見が出されました。



第二弾 議会最前線 新潟県知事に意見書を提出!!

出雲崎町議会は、『「安全で安心して暮らせるまちづくりの推進」の早期実現を強く求める意見書』を県知事宛てに提出しました。

主旨概要

柏崎刈羽原子力発電所が稼働したことに関連して、複合災害が発生した場合、避難体制やそれに係る財政負担等については、当町のように財政的に豊かではない市町村に対しては、**国が責任をもって支えるべきだ**と考えています。

また、出雲崎町民はこの発電所開設時から今日まで、様々な出来事に深く関わってきました。だからこそ、町が今進めている「安全で安心して暮らせるまちづくりの推進」を一日でも早く実現できるよう、**新潟県が支援して下さるよう強く求めています。**

要望事項

1. 避難場所や道路の整備に財政的支援を!

① 尼瀬地区の津波避難場所の整備

渋川臨海学校跡地に一時滞在できる多機能な避難場所を整備

② 避難所をつなぐ道路の整備

出雲崎中学校と、中央公民館を結ぶ直結道路を整備する

③ 海岸から国道へ逃げる道路の整備

町道尼瀬稲川線などの急勾配、急カーブ、幅員狭小などの部分改良をして機能向上

④ 津波避難場所が孤立しないための道路整備

津波指定避難場所の孤立を防ぎ、人や物資が通れる縦断道路を整備

2. 原子力立地給付金を増やして!

私たちの出雲崎町は、すべての地域が柏崎刈羽原子力発電所から 20 キロ圏内にあるという特別な地域であることを考えて、「立地給付金」交付単価の引き上げを!

3. 国道352号線の工事を、もっと早く終わらせて!

高台への避難に使われる「国道 352 号線 (出雲崎改良工事・石井町工区) の工事が進められているが、完了までにあと 10 年余を要するため、一日も早く工事を終わらせてほしい!



ひとくちメモ

「意見書」ってなに?

地方自治法第99条という法律に基づき、町民のみなさんの安全や生活のために「どうしても国や県に動いてほしいこと」があるとき、町の議会の名前で公式に提出する意見のことです。



島 明日香 議員（文責）



農家を守る独自支援は

町長 秋に向け前向きに

町長 仮渡金が未公表のため具体的な試算はしておらず、町農業再生協議会までの提示も約束できない。

島 秋まで手をこまねくのではなく、既存データから米価下落に伴う担い手農家の減収を独自に試算し、事前に危機感を共有すべきではないか。

町長 町農業再生協議会の構成員等を通じて情報を把握しており、いまだに仮渡金の価格が示されず心配する声は伺っている。

島 2026年産の作付け動向の把握や、JAからの転換要請に対する現場農家の心配な声を掴んでいるか。

作付け動向と
現場の受け止め



町長 多面的機能支払交付金等の活用や、農業・漁業の基幹産業を守る観点から、何ができるか秋に向けてしっかりと検討する。

島 自主的に町道沿いの草刈りを行う農家へ、替刃を現物給付するなどの支援はできないか。

町長 現段階で判断する状況になく注視はするが、過去の支援実績もあり、秋に向けて前向きに考える。

島 営農を継続できるよう、資材高騰分への補助や米価暴落時の緊急経営安定支援を行う考えはあるか。

町独自の財政支援策

草刈りを行う農家への
資材（替刃）支援

雪割草で広域観光へ

町長 ガイドブック掲載を検討



えちご雪割草街道久田ルート 入口付近

町長 住民の維持管理に感謝するが、広域連携への参画には明確な保存・活動団体の存在が不可欠であり現時点では条件が整わない。しかし、長岡側の前向きな意向や議員の提案を受け、公式参画については内部で検討する。

まずはガイドブックへの
掲載を検討

島 久田城址の雪割草ルートは、住民の善意に依存しており、高齢化する現場にリスクを丸投げすべきでない。施政方針にある地方創生や情報発信の具体化に向け、「えちご雪割草街道」の広域連携に公式参画し、国・県の補助金を活用したハードソフト一体の整備や、町単独のガイドブック掲載を今すぐ進めるべきだ。

住民任せの維持管理に
公的保護を

1 しま あす か 島 明日香 議員

質問項目

1. 町長施政方針に基づく地域支援の具体化と「えちご雪割草街道」広域連携について
2. 町内農家を守るための町独自の支援策について

詳細は7ページ

2 こばやし れい こ 小林 玲子 議員

質問項目

1. 多世代交流館「きらり」の活用について

詳細は8ページ

3 こばやし あ す か 小林 明日香 議員

質問項目

1. 移民及び外国籍居住者に対する町の方針を問う
2. 天領の里、心月輪周辺の賑わい創出について
3. 妻入りの街並み及び景観条例について

詳細は9ページ



4 たか くわ よし こ 高桑 佳子 議員

質問項目

1. 関係人口の創出にユニバーサルツーリズムの視点を

詳細は10ページ

5 わだ かず ゆき 和田 一幸 議員

質問項目

1. 町道小木ノ城線の復旧と、常楽寺林道を活用した防災ネットワーク整備について

詳細は11ページ

一般質問の原稿は、
それぞれの質問者が
作成しています

出雲崎町議会YouTube チャンネル

6月定例会の録画
中継はこちらから
ご覧いただけます

質問者の一般質問は二次元
バーコードより、YouTube
でご覧いただけます。



小林 玲子 議員（文責）



「多世代交流館きらり」を活用した 交流人口・関係人口の拡大を

町長

町全体で持続可能な 町づくりが必要だ

「多世代交流館きらり」
を活用して
更なる魅力発信を

小林 「多世代交流館きらり」のホームページには、利用者の約4割は町外の方が利用されているとある。施設を利用していただく地域外の方に對し、当町の魅力発信をどのように行っているのか。

町長 きらり独自のホームページを開設している他、SNSを通じての情報発信や館内には観光パンフレットなどのチラシも自由に手に取っていただけるようにしている。

小林 子育てガイドブックや空き家に関する情報なども紹介されている。パンフレットの設置により、観光や「きらり」を訪れる方がどのくらいいるのか、効果等を把握しているのか。

町長 「きらり」に訪れた方は、令和7年度は6,197人、令和6年度は6,157人、令和5年度は5,936人となり、SNSの登録者数は1,037

人となっている。

小林 町が作成した観光情報の他にも、職員や子育てサポーターのお勧めスポットなどを親しみやすい形で情報発信を行うことで利用者との会話のきっかけになると思うが町長の考えを伺う。

町長 職員も積極的に声をかけ、町内の観光施設や飲食店などの情報を提供している。

再訪に繋がるような
取組を

小林 利用者はリピーターも多い。「きらり」を利用する理由や知ったきっかけを伺うと「自宅から30分くらいで来ることができ」「混みすぎず、遊ばせやすい」「Uターンしたい町全国6位に選ばれた町が気になった」「利用料が無料」などとお話をされていた。利用者が当町に興味や関心をもっていることがうかがえるが、再訪問に繋がるような取組を検討しているか伺う。

町長 観光部局と連携し、さらに機能強化をしていく。「きらり」発着の周遊モデルコースや伝統工芸体験や昔遊び体験などのワークショップの開催なども検討したい。

小林 これから進める地方創生推進事業において、自然と子育て世代が集まる「きらり」は交流人口や関係人口の拡大に繋がる重要な拠点と考えるが、今後、地方創生に絡めてどのような位置づけで進めていくと考えているか伺う。

町長 「きらり」だけではなく町全体でこの地域をいかに持続可能な町づくりを行うかということが大事だと考えている。

子育てサポーターの
協力も重要だ

小林 町内のこども園や保育園の紹介コーナーが設けられており、子育て世代には参考になる情報が発信されている。しかし、利用者は子どもから目が離せず掲示物を見ることができていないのではないかと感じ



町内のこども園・保育園の紹介

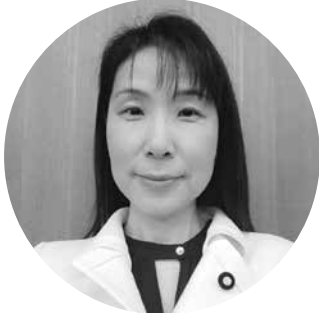


地域でつながる 親子の憩いの場

る。子育てサポーターから協力してもらい、短時間でも安心して情報を見ていただける環境づくりが必要ではないか。

町長 サポーターマニュアル研修会や年に1回実施している子育てサポーター研修会で安全、安心に過ごせるようサポーター一人一人に確認をしている。

妻入り保存会の誰の判断で 風車が景観に反しないと結論が 出たのか詳細な経緯を



小林 明日香 議員（文責）



町長

景観の良し悪しについて決定した事実 はない、今後も決定することはない

景観は民意を
反映すべき！
VRアプリの周知を

小林 事業者のモニタージュ写真は数カ所で都合よく雑木で風車が隠れてしま

う場所もある、町民は町のどこからでも、どう見えるのか知る権利が有る。スマホで風車が見れるアプリを広報で周知は可能か。

町長 事業者がする事であり周知する予定はない。

妻入りの街並み
保存とは真逆、
景観条例見直しを！

町長 令和7年10月幹事会にて、町に利益があるものであれば多少は容認できる



移民及び外国籍居住者が
増えた場合の
町の対策はあるのか

町長 特にない。

天領の里、心月輪 キッチンカー誘致 夜も楽しめる海の出雲崎に



常設ブースの事例

小林 天領の里は日没で閉まるが日没後1時間が一番夕日が美しい時間帯。駐車場をキッチンカーに開放し、時代館の南側にシャッター付きブースを作り、昔の市の様な賑わい創出を。



文字看板の例

小林 若者は8時を過ぎると集える場所がない。夕日に向かうブランコや文字看板、防犯カメラ等を設置し愛の生まれるラブスポットに。

町長 妻入りの空き家を店舗やギャラリー利用する案もあり、付け焼き刃ではない改修を計画。防犯カメラ設置場所も含めるよう管理者に伝えます。



高桑 佳子 議員（文責）



町観光施設の バリアフリー対応を 検討する

高桑 出雲崎町が地方創生に向け、ハード・ソフトの両面から取り組みを進めようとするなかで、観光客の裾野を広げることが目的に、今、できる策を講じることが関係人口の増加に大きく繋がっていくのではないかと。しかし日常、動くことや伝えることに不自由を感じないと、配慮が必要な方たちの視点に気づくことができない。誰にでも優しく、誰もが楽しめる「ユニバーサルツーリズム」の視点を十分に取入れた町として、その情報を発信するとともに、多くの人に認知され、選ばれる町となることを望み、考えを伺う。

関係人口の創出に ユニバーサルツーリズムの視点を

まちづくりそのものの視点として 観光振興に努める環境に努める

昨年のガイド研修で、実際にコースを車椅子で移動し、バリアフリー対応が十分ではないと感じた。歴史を重んじる観光施設や街並みは段差も多く、高齢者や足に不自由がある方等には不便な事が多い。時間や費用、景観を考えると、ポータブルスロープや据置型の手すり等、状況に応じて使えるものを用意できないか。気づくことから始まるユニバーサルツーリズムの視点を持って、事業を進めてほしい。

調査し必要に応じて 対応する

町長 街並みの観光施設等には、歴史的景観や特徴を可能な限り維持しながら公開しているため、バリアフリー対応に制限があり、不便をおかけしている。施設の保存と調和安全性を踏まえながら必要に応じて簡易的対応を検討したい。これは特別な施策ではなく、まちづくりそのものの視点と捉えて今後の観光振興に努めたい。

心のバリアフリー醸成を

高桑 心のバリアフリーは気づくことから始まる。施設スタッフだけでなく、地域住民にも醸成して欲しい。知識だけでなく、実践的で様々な手法を学ぶ研修会の実施を検討してほしい。

体験型研修を取り入れ 学校教育との連携を図る

町長 実際に自分事として理解する機会が大切である。学校教育との連携は非常に効果的と考える。地域社会全体での受け入れ環境向上に繋がる研修の開催等も検討したい。



観光ガイドを 天領の里に常駐させて

高桑 ガイド人材育成のための養成講座を今後も継続して行う予定はあるか。また、観光ガイドは現在予約制のみだが、出雲崎に来てくださった観光客に満足をいただく大事な機会をみすみす逃しているのではないかと。観光客の興味関心を探りながら案内できる観光ガイドをシーズンや休日に常駐できないか。

ガイド部会の意向を 優先する

町長 実際に案内をするガイド部会の意向が最優先だと思う。ガイドの存在を知らない方もおり、常駐することで分かれば、有料でも行ってみようという方もいると思う。自主財源を確保し、ハイブリッド型の財源の中で、期間限定で試験的に行なってみることも検討をしたい。

常楽寺林道を 防災機能を備えた道路へ！ 町道の多様な活用模索を



和田 一幸 議員（文責）



現状では林道としての位置付け 国や県の制度を活用していく

小木ノ城線崩落の 分析調査と 復旧について

和田 町道小木ノ城線の崩落原因、復旧工法及び復旧時期は、又、周辺斜面も含めた危険性の調査はあったのか。

町長 地質調査の結果、支持強度や粘性性の低い地層に地下水や融雪水が浸透し、表層崩壊が発生したと推測している。地すべり特有の亀裂やひずみは確認されておらず、関連はないと判断している。

復旧工法は「補強盛土工法」を予定しており、国の防災減災対策等強化事業推進費を活用し県と協議中。順調に進めば10月頃の工事発注を見込むが、冬期施工が難しく翌年度への繰越も想定している。周辺も含め現地確認をおこなったが、ひずみ等の異常は確認されなかった。

山林部の 孤立リスクに備えて 既存道路の活用を！

和田 豪雨や山林火災が増える中、山間部集落の孤立リスクをどのように認識しているか。

町長 本町は約7割が林地で、枝状に集落が点在する地形であり、大規模災害時には孤立のおそれがある集落が存在すると認識している。これまで集落間を結ぶ山越え用道路整備を進めてきた。

和田 ハナモモシーズン中、小木ノ城山で救急搬送が必要になった場合の対応は。また、町道小木ノ城線や常楽寺林道を災害時代替道路として活用する考えはあるか。

町長 出雲崎町側の道路では不安があるため、長岡側の道から迂回して救急車を入れる可能性がある。林道常楽寺線は現状「防災道路」ではなく林道として位置付けている。

国の方針に見合った 林道活用を

和田 国は単一路線依存の解消を重視している。林道も防災機能を持つ道路として活用すべきではないか。

町長 常楽寺林道は一部舗装区間もあるが、未舗装区間の管理が厳しく、高齢化により地域管理も困難となっている。

防災道路として活用するには、道幅拡張やガードレール設置など相応の整備が必要であり、現時点で積極的に防災道路化する考えはない。

和田 大規模整備ではなく、最低限通行可能な状態を維持する段階的整備や国の補助金の活用などで整備可能ではないか。

町長 少し管理すれば通行可能になる箇所もあると認識している。ただし、防災目的よりも森林整備や木材搬出と連携した整備が現実的であり、その場合は国



崩落した小木ノ城線

県補助の可能性も高いと考えている。防災目的だけでは補助を受け取ることは難しい。

和田 国は「災害後の復旧」から「既存インフラの防災活用」へ政策転換している。常楽寺林道に限らず、防災道路候補を再検証すべきではないか。

町長 道路は「命を結ぶ道路」であり重要と認識している。

町単独財源では限界があるため、和田議員の言う通り国や県の制度を活用しながら道路整備に努めたい。

全員協議会 4～6月開催分

地方創生推進事業

進捗状況

総務課長

地域未来交付金の決定

国の当初予算成立をけ、4月7日に「地域未来交付金」の交付が決定した。総事業費9,312万6,000円のうち、2分の1にあたる4,656万3,000円が交付される。

地方創生推進本部の設置

町長を本部長とする「出雲崎町地方創生推進本部」を4月1日に設置し、16日に第1回会議を開催。部局を越えた横断的な政策を推進していく。

外部専門人材の委嘱

（政策アドバイザー）
大津 俊哉氏 指導・助言、専門家招へい支援などを目的に委嘱した。6月補正予算に委託料100万円を計上する予定。

（地域力創造アドバイザー）

曽根進氏 町のブランディング、アクションプラン作成支援などを目的に委嘱した。当初予算から組み替え、6月補正予算にて委託料610万円を措置し、財源は、特別交付税が措置される。

（副業型地域活性化起業人）

西村 公志氏 地方創生マーケティングへの助言などを目的に委嘱した。当初予算200万円、財源は、特別交付税が措置される。

（企業派遣型地域活性化起業人）

白川 楓子氏 三大都市圏の企業から社員を派遣してもらいノウハウを活かす制度で、6月1日付で委嘱した。主にふるさと納税や空き家対策、情報発信等に従事し、毎月開庁日の半分以上は本町に滞在する。財源は、特別交付税が措置される。

アクションプラン等の策定

観光・物販・移住促進などの

接続方法を整理する計画策定業務について、公募型プロポーザルを6月22日に実施。2社から参加表明があった。予算は、アクションプラン策定に550万円、情報発信業務に330万円の計880万円を計上し、財源の2分の1が地域未来交付金を充当する。

地域活性化事業者プロジェクトの実施

地元事業者が抱える課題を外部人材の力を借りて解決するため、伴走型支援を行うプロジェクトを開始する。今年度は2業者程度を選定予定とし、窓口は商工会。本業務の委託先を決めるプロポーザルは7月6日に実施予定で、現在1社から参加表明がある。予算は330万円とし、財源の2分の1が地域未来交付金を充当する。

地域おこし協力隊を募集

「出雲崎のよろず屋」体制強化を図るため、隊員1名を募集中。町のホームページに詳細を

掲載しており、申込期限は7月31日までとなる。

今後のスケジュール

（にぎわいづくり・関係人口創出事業）天領の里等を中心とした通年イベントの企画実行。（空き家調査・活用計画策定業務）妻入りの街並みの空き家状態や活用可能性の可視化。（地域商社法人ポテンシャル調査業務）将来的にふるさと納税やイベント運営等を担う地域商社設立の可能性を調査。

※随時プロポーザル等で実施予定

中野議員 現在の北谷隊員と一緒にやっていくのか。

総務課長 北谷隊員が従事しているよろず屋の内容をメインに従事していく予定で、そこから地方創生推進事業に結びつくような活動に展開していく。

包括連携 コーディネーターの任用

教育課長 高校の魅力化人材育成のため、元出雲崎高校長の真島徳衛氏を任用（週3日勤務）した。

町道小木ノ城線 道路復旧工事

建設課長 3月報告の被災箇所について、4月に測量・調査設計



出雲崎町 新型インフルエンザ等 対策行動計画変更

保健福祉課長 国や県の計画に従い、町は新型コロナ対応で得られた知見を反映した「町行動計画」の変更を6月に実施した。住民の命を守り、地域経済への影響を最小限に抑えるための改定である。

従来6つに分かれていた時期区分を「準備期」「初動期」「対応期」の3期に集約した。これにより各段階での町の役割が明確になり、より迅速で効果的な対応が可能となる。

感染症の発生前は町内連絡会議で事前準備を進め、発生時には直ちに町長を本部長とする対策本部を設置し、国や県と連携して重要業務を継続する体制を整える。緊急事態宣言には、法律に基づく法定の本部に即座に移行する。今後、計画の本文及び町民の皆さまに分かりやすい概要版を速やかに公表する予定だ。

を開始した。工法比較を行い最適な設計を進める。財源は国の推進費を6月上旬に申請予定だが、決定が9月下旬となるため着工は10月、積雪前の2か月間の突貫工事による事故や二次災害リスクを考慮し、令和9年度への繰越も含め慎重に判断する。

小林明議員 町のお金で、早めに工事に取り掛かれなかったのか。

建設課長 当初は災害復旧工事での申請を予定していたが、要件外のため別の国費財源の活用へ切り替えた。しかし、概算での申請が認められない仕組みであったため、今回、正式な申請に必要な測量・設計業務を先行して委託したものである。

県指定文化財 小木ノ城山の 樹叢倒木

教育課長 天然記念物「小木ノ城山の樹叢」で3月頃に原因不明の倒木が発生した。町は県へ届出書を提出し、対応を協議中である。現在は来訪者の安全のため、枝払いとバリケード設置

の応急処置をおこなっている。

今後は周辺道路の通行止め状況を見極めながら、必要な時期に補正予算を講じる方針である。



倒木したアカイタヤ

固定資産税の 課税誤りにおける 再発防止について

石川議員 今回の重大な課税ミスは、人員増などの再発防止策だけで防げるのか。人間によるミスを未然に防ぐため、同一の住所や電話番号のデータが重複して入力された際、画面上に警告が出るようなシステムを改良し、機械的なチェック機能を導入すべきではないか。

町民課長 ご提案のシステム改修は、汎用製品の制約等から現状は困難だが、今後も業者へ要望を伝える。当面は、複数人による目視チェックの徹底やチェック項目の工夫など、組織全体で再発防止に努める。

出雲崎町文化財の指定

教育課長

町は、30年以上継承されている「出雲崎大祭の祭礼行列一式」を町の無形民族文化財に指定した。400年続く大祭の中で育まれた祭礼行列は、子どもたちによる演奏「チャンチャコチャン」や、漁師町らしく神輿を激しく上下に揺さぶる勇壮な風習を今に伝えている。地域の伝統文化を体現する貴重な文化財として、今後の保存と後世への確実な伝承を図っていく。また、議員には出雲崎大祭調査報告書を配付した。

石川議員 文化財の所有者として指定されている「石井神社氏子総代」および「出雲崎大祭実行委員会」は、役員やメンバーが

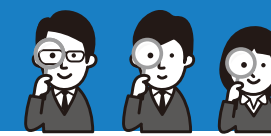
交代していく組織としての指定という認識でよいのか。また、所有者として今後どのような責任を負うことになるか見解を伺う。

教育課長 両団体の連盟申請に基づく指定であり、今後は各所有者が教育委員会等の指示に従い、適正に管理をおこなっていただくことになる。

宮下議員 文化財の指定は喜ばしいが、宝の持ち腐れにしてはならない。形だけで終わらせず、町の観光や地方創生に貢献できるように今後はどのような具体的計画をもって「生きた形」で活用していくのか見解を伺う。

教育課長 指定にして終わりにせず、担い手の確保や保全状況の調査など、町として最大限の支援を進めていく。





町の課題を調査・研究中

5月18日

社会産業常任委員会 視察報告 ～ 休憩所 心月輪 ～



— 視察理由 —

- ①事業の採算性と実態の確認
- ②指定管理の妥当性の判断
- ③町の発展への寄与



社会産業常任委員長
島 明日香

— 現 状 —

- 増える利用者
令和6年度は3,137人、令和7年度は3,497人と、前年より約360人増えている
(※隣の良寛記念館と比べると約2,000人少ない状況)
- にぎわう食堂とPR
お食事処夕日庵のふれあい食堂は毎月大盛況である
ここで作ったお惣菜を天領の里で販売し、お店を知ってもらう工夫もしている
- メニューの使い分けと協力
天領の里では、観光客向けに出雲崎漁港のサザエなどの魚介類を使用し、夕日庵では主に町民向けに地元産野菜や米を使用し、特徴を分けながらも人員の共有や観光客の誘導を行うなど連携している



— 課 題 —

- 建物の傷みが激しい
強い風や雨のために、屋根や雨どいが飛ばされている
テラス席に出るための出入口の戸が、建付けが歪んでいるため2箇所しか開かない

各委員からの意見



和田一幸 委員

景勝百選との関連性をもたせてほしい。
駐車場の白線が消えかけている。



石川 豊 委員

良寛記念館への誘導や工夫はあるのか。
料理や景観について来客者の反応は。



宮下孝幸 委員

経営母体が赤字補填をしているような運営状況はいかがなものか。



小林明日香 委員

事業者の取組について宣伝が足りていないのではないかと。

5月14日

福島県柳津町議会が視察に来られました

町づくりや議会運営について意見交換を行いました



農業者・商業者の高齢化及び担い手不足による対応策は

公共交通、タクシーや代行が減少している中、デマンド交通の運行状況は

議会サロンを開催します

町議会では、町民の皆さまのご意見・ご要望等をお聞きする『議会サロン』を開催します。担当議員2名が皆さまをお待ちしています。ぜひ、お越しください。

開催日	時間	場 所	担当議員	
8月22日(土)	午前10時～12時	妻入り会館	高 橋 速 円	北 谷 三 樹
10月24日(土)	午前10時～12時	ホッと情報館 陽だまり	中 野 勝 正	島 明 日 香



出雲崎町議会
YouTube



出雲崎町議会
ホームページ



出雲崎町議会
公式LINE

議会のこと、町への要望など
ぜひ、この機会にお聞かせください。
顔を見に来ていただけるだけでも
嬉しいです。



議会のうき

(主なもの)
(令和8年5月～令和8年7月)

- 7・1 議会報特別委員会 (議会だより132号)
- 8 議会運営委員会 (議会だより132号)
- 25 17 議会報特別委員会 (議会だより132号)
- 26 議会報特別委員会 (議会だより132号)
- 12 議会運営委員会 6月定例会最終日 第6回全員協議会
- 11 6月定例会二日目(一般質問)
- 10 社会産業常任委員会 総務文教常任委員会
- 9 町村議会議長会臨時総会 (新潟市)
- 26 23 議会報特別委員会 (議会だより132号)
- 22 第5回全員協議会 (心月輪 現地視察)
- 5・14 柳津町議会来訪 社会産業常任委員会 (心月輪 現地視察)
- 5・13 議会運営委員会 柳津町議会来訪
- 6・1 議会運営委員会 6月定例会初日 議会報特別委員会 (議会だより132号)
- 8 6月定例会最終日 第6回全員協議会
- 26 23 議会報特別委員会 (議会だより132号)
- 22 第5回全員協議会 (心月輪 現地視察)
- 5・14 柳津町議会来訪 社会産業常任委員会 (心月輪 現地視察)
- 5・13 議会運営委員会 柳津町議会来訪

出雲崎でのミッションを教えてください

町の情報発信の強化、地域内外の交流の場づくりなどです。
本業で取り組むマーケティングやデザイン力を生かしたいです。

月の半分は違う土地で違う仕事をする働き方についてどうお考えですか

新しい働き方で挑戦だと思っています。ですが、一方で得られたことをもう一方にも生かすことができるのは強みですし、ワクワクしている自分がありますので、ポジティブに捉えています！



みんなの声

6月より着任しました！
皆さまとたくさん
お話しさせてください！

地域活性化起業人

しらかわ かこ
白川 楓子 さん
インタビューしました！

出雲崎の印象を教えてください

地名は知っていましたが来たことはありませんでした。

良寛さんのイメージが強いです。まだ着任して1週間ちょっと

(インタビュー日：2026年6月11日) ですが、皆さん距離感を近くして、温かくフランクにお話しくださいますし、町のことを色々考えていてすごいなと思いました。

意気込みをお願いします

情報発信等を通じて、町内外の方をつなげられるよう頑張ります！

アイデアがよく出てくる方なので、皆さんと意見交換をして、少しでも実現できればと考えています！



表紙の小話

この度の表紙では、出雲崎町の豊かな自然と、そこに息づく一次産業の力強さをお伝えしています。

写真には、海と共に生きる漁業者、美しい水田を守り豊かな実りを紡ぐ農業者、そして大切な里山を次世代へつないでいく姿があります。日々、厳しい自然と実直に向き合う生産者の方々の真剣なまなざしと、汗ひかる作業風景を切り取りました。

初夏の爽やかな風が吹き抜ける中、青々とした水田や、生命力にあふれる里山、そして活気ある出雲崎の海など、私たちが普段何気なく目にする風景の裏には、常にこうして地域を支え続ける人々の営みがあります。これらの力強い歩みは、町の暮らしを根底から支える源流であり、私たちが未来へと継承していくべき、かけがえのない大切な財産です。私たちが誇る「生み出す力」と初夏の瑞々しい躍動感をお届けします。

(文責 島明日香)

編集後記

議会報特別委員会の新体制でスタートしてから、早いもので一年が経ちました。この間、私たちは毎月「より伝わる紙面とは何か」を議論し続け、題字の刷新をはじめ、紙面全体の表現を見直してきました。その積み重ねが形となり、現在のスタイルに落ち着きつつあります。

研修会で得た学びや、他町村の工夫も取り入れながら、最もお伝えしたいことや町民の皆様の声を意識して編集に取組んでいます。

以前は議会報告を忠実に反映するよう心がけていたのですが、情報量が少なくなりお伝えしきれないのではないかと不安は、今も私たちの胸にあります。しかし同時に、「読みやすくなった」というお声やご助言、ご意見は、紙面作りの方向性を後押ししてくれています。

これからも、議会の動きや調整の背景を分かりやすく伝える言葉でお伝えしていきたいと思っています。

(高桑佳子)

議会報特別委員会

委員長 島 明日香
副委員長 小林 玲子
委員 高桑 佳子
小林 明日香
和田 一幸
北谷 三樹

議会だより発行予定 発行は4月・7月・10月・1月の年4回です。